

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(五代若松原地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第5回  
まちづくり懇談会《五代若松原地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《五代若松原地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年8月28日（木）午後7時00分～午後8時30分
- 2 開催場所 五代若松原地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 48人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，南市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

五代若松原地区連合自治会・五代若松原地区まちづくり推進協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	地域活動における「自治会」と「まちづくり組織」の協働について	みんなでまちづくり課
2	高齢者支援ネットワークシステムの定着化と強化について	高齢福祉課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために		
(1) 高齢期の生活を充実する		
(2) 愛情豊かに子どもたちを育む		
(3) 都市の福祉力を高める		
No.	意 見	所 管 課
1	社会福祉協議会について	保健福祉総務課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	車道と歩道の段差について (1)	道路保全課
2	J R雀宮駅への椅子の設置について	土木管理課, 道路保全課
3	車道と歩道の段差について (2)	道路保全課
4	子育てにやさしいまちについて	みんなでまちづくり課, 子ども未来課, 保育課, 健康増進課
5	障がい者にやさしいまちについて	障がい福祉課, 道路建設課
6	地域づくりについて	みんなでまちづくり課
7	工事看板の表示内容について	検査室
8	総合スポーツゾーン整備に伴う道路の整備について	地域政策室, 土木管理課, 道路建設課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 半貫 光芳 氏

(7) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	地域活動における「自治会」と「まちづくり組織」の協働について
-----	--------------------------------

宇都宮市が力を入れているまちづくり事業は、新しい人や新しいイベントの改革による地域の活性化という面では確かに大きな効果を上げていると思う。宇都宮市の中心部も大分イベントが多くなっており、全体的にまちづくりの大きな効果が出ているのかなと思う。

当地域においても、先日、10年ほど続けている連合会設立の日記念イベントを行ったが、多くの人たちが参加してくれた。また、このようなイベントが、地域の事業所などと連携しながらできることも大きなメリットと言えらると思う。

しかしながら、その反面、事業を企画したり、実施したりするという肝心なスタッフの部分については、自治会の組織に完全に頼っているというのが現状であり、これからの形は続いていくように思われる。

宇都宮市がまちづくりにシフトし始めた頃は、自治会連合会と別組織でという流れがあったように記憶している。今でもそうなのかもしれないが、現実的には我々も含め、ほとんどの地域では実現が困難な状態なのではないかと考えられる。

私が今まで地域活動を行ってきた中で、最近は特に、「まちづくり」と「自治会」の違いと共通点を考えながら地域活動を行っていることがある。私なりの判断であるが、「まちづくり」は様々な事業を通して、大勢の人が集い合うことにより、地域全体が安全に関する意識の高揚や相互のコミュニケーションを図り、地域力を高めていくためのものではないか、「自治会活動」は、自主的に地域活動に参加しようとする人たちが、隣同志や班のコミュニケーションを源流に、地域の安全や活性化を図る活動を強め、隣近所力を高めるものではないか、と考えている。共通することは、地域コミュニケーションであることは間違いないが、3月11日の震災以来、地域コミュニケーションの大切さと重要性が取り上げられている。

しかし、現在、我々の地域で行っているまちづくりの活動は、イベント参加者の間では、良く見かける人、見たことがあるというようなことが多く、たくさんの方が参加しているが、どこの誰であるとか、あの人最近見かけないといった段階にまでは踏み込めていないように感じている。一方、自治会活動においては、回覧板のやり取りや班の会合などを通して、隣近所が触れ合う機会が大変多く、必然的にお互いの生活状況が把握でき、普段の声かけなども頻繁に行われている。災害時等に頼れる情報量で比較すると、まちづくりよりも自治会のほうが、はるかに多くの情報があるのではないかなと思う。

また、地域への思いの強さについても、会費を自主的に支払い、地域活動に参加しようとする自治会員の方が、はるかに意識が高いのではないかなというようにも感じている。

まちづくりの重要さを非常に強く感じていながらも、やはり補助金を基に地域内全てを対象として事業を展開するまちづくり事業と、会費を原資に従来の地域活動を推進していく自治会活動の両立に少々のギャップを感じている。その中でも、自治会離れを防ぎ、そして会員の更なる拡大を図らなくてはならないという状況に、若干戸惑いを感じているというのが本音である。

もう一点、地域でも超高齢社会を迎える中で、高齢者等の情報に精通している民生委員や社会福祉協議会、自治会の連携に、まちづくりの組織がこれからどのように関わっていき、機能を分担していくのか、まだ不透明なところがあるように感じる。

まちづくりは本当に地域の活性化のために必要だということは分かるが、会員組織である自治会がどのように関わるのか、この二つがどのようにこれから発展していくのか、このことを我々は図りかねている。

まちづくりの仕掛け人である宇都宮市の方で、宇都宮市全体のまちづくりのこれからの推進、自治会活動をこれからどのような形で支援するのかについて、お伺いしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：みんなでまちづくり課</b>
------------	-----------------------

【市長】

自治会については、皆様も重要な組織であると認識されていると思う。自治会は、日本独特のものである。行政だけではまちづくりはできないことから、地域の皆様に一体となって御協力いただかなくてはならない。以前のような行政指導で行うまちづくりは終わっている。市民の皆様から様々な御意見をいただいて、まちを一緒につくっていく大きな組織が自治体であると思うし、自治会はなくてはならないものであると考えている。最近、自治会の加入率が段々と低下していることから、自治会連合会と自治会加入促進委員会をつくり、自治会加入率を高めていこうということで、プロスポーツチームにも御協力いただきながら、自治会の加入率を上げる取組を進めている。

次に、地域まちづくり組織についてであるが、自治会や地区によっては、福祉関係やスポーツ関係、あるいは教育関係など、様々な組織があると思うが、そのような団体が構成されるネットワーク組織がまちづくり組織であると考えていただきたいと思う。地域に関わる様々な団体が上手く連携が取れるような仕組みをつくり、地域のイベントなどを開催していただくのがまちづくり組織である。また、地縁による自治会と各種の団体が結集した地域まちづくり組織が、地域の実情や現状、地域の皆様のまちづくりに対する考え方などを上手く加味しながら、連携を取ってまちづくりを進めていただけるとありがたいと思っている。

まちづくり組織と自治会は、表裏一体のようなところもあり、別々の組織になっている地域もあれば、一体化している地域もあり、それぞれの地域によって組織のあり方が異なっているのが現状である。五代若松原地域の特色あるまちづくりを進めるにあたっては、五代若松原地域独自の自治会と様々な団体から組織されるまちづくり組

織を上手く活用していただければと思う。

まちづくり組織が始まって10年ぐらいになるかと思うが、問題点などを一度検証させていただきたいと考えており、まちづくり組織会長及び連合自治会長に集まっていたが、行政としてもよりよい連携が取れるような仕組みをつくっていただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。

時間をかけることによって、地域に馴染んだ組織形態になるということもあるかと思うので、皆様方に御苦勞をおかけするが、これからもそのような組織を上手く活用し、守っていただければと思う。

## ■地域代表意見2（要旨）

<b>テーマ</b>	<b>高齢者支援ネットワークシステムの定着化と強化について</b>
------------	-----------------------------------

平成27年の宇都宮市の人口推計が、517,760人とあるが、65歳以上の高齢者が122,227人、つまり20%を占めるというのが、宇都宮市の現状の年齢構成だと思っている。したがって、宇都宮市も超高齢化時代であるということについては、間違いのない事実だと思う。そのような中で、全国的に老々介護や認知症の行方不明者が約1万人を超えていることなどが社会問題になっており、宇都宮市にも全く同じような状況にあると理解している。

当地域では、「地域包括支援センター」が中心となり、健康寿命を延ばそうということで、健康体操などの予防運動を計画的に行っているほか、四半期ごとに「地域会議」を開き、この地域でどのような問題があるかということについて、率直な意見交換を行っている。最近では8月10日に開催したが、地域会議において、情報の共有化を図り、支援ネットワークの定着を進めていく中で、守秘義務等により個人の実態を把握できないことから、躊躇してしまうということが悩みになっている。市に登録制度があるが、もっと定着させ、情報を共有できるようなまちづくりによって、高齢者が安心して住めるというような社会に向かっていきたいと考えている。

また、元気な高齢者が高齢者ボランティアとして社会進出できるように、行政のバックアップ体制ができれば、もっと安心して住みよい環境づくりができるのではないかと考えている。

市の考えをお伺ひしたい。

<b>回答</b>	<b>所管課： 高齢福祉課</b>
-----------	-------------------

【市長】

組織として活動していただいていることに、心から感謝申し上げます。

個人情報については、行政が簡単に情報を提供できないような状況にあるが、本人から「自分の情報を提供しても良い」申し出があった方については、守秘義務の責任が

ある民生委員だけではなく、老人クラブなどにも情報を提供することができる。

登録制度についても、個人情報の壁があるから情報提供できないではなく、本人に確認をした上で、地域に情報を提供する橋渡しができるような試みができると考えているので、もう少し時間をいただきたいと思う。

宇都宮市では、ひとり暮らし高齢者等安心ネットワーク事業を実施しているが、この事業は、本人から個人情報を提供していただき、民生委員や地域包括支援センターが見守り活動等を行っているものである。しかし、この事業だけでは全てをカバーできないことから、時間をかけながらも、より良いネットワークを構築し、より良い制度にしていくことが必要だと思う。

また、元気な皆様には、いつまでも支える側になっていただきたいと思う。全国的に平均寿命が延びているが、健康寿命と一緒に延ばすことがこれからの社会の課題である。医療や介護などの制度を支えていく若い人たちや子どもたちの負担が少しでも無くなるように、行政も皆様も健康寿命を延ばしていく努力をしていかなければならないと考えている。

そのような中で、今回、高齢者のボランティアポイント制度を始めることにした。来年度から本格的に始めていきたいと思うが、この制度は、高齢者の皆様にボランティアとして、地域で様々な活動に参加していただくことによって、ポイントが付与される制度である。

例えば、1ポイントが100円だとすると、10ポイントで1,000円ということになる。宇都宮市の施設の利用券や介護保険料に振り替えられるようにした。また、公共交通や商店街でもポイントが使えるようにしていきたいと考えている。この制度を活用していただくことにより、高齢者の方が昔から培ってきた能力や経験などを社会のために活用していただき、自然に健康寿命が延びるということになればよいと考えている。今年の10月から事業の一部を先行実施し、来年度の4月から本格的に始動していきたいと考えている。

本市としては、このような考えにより、高齢社会や安全で安心な地域づくりを進めていきたいと思うので、これからもよろしくお願ひしたい。

## ■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	<b>市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために</b> <b>(1) 高齢期の生活を充実する</b> <b>(2) 愛情豊かに子どもたちを育む</b> <b>(3) 都市の福祉力を高める</b>
-----	---

総合計画は、「5年後の市民の皆様の幸せ、そして100年後も宇都宮市が持続できる都市の繁栄」を考えて策定しているものであり、宇都宮市における「まちづくりの羅

針盤」となるものである。

#### (1) 高齢期の生活を充実する

宇都宮市の人口推計は、平成 27 年が 51 万 7 千人である。平成 29 年には 518,460 人となり、人口のピークを迎えるのではないかと考えている。平成 22 年の 65 歳以上の老年人口は約 10 万人であったが、平成 42 年には 14 万 6 千人になり、3 人に 1 人が高齢者になると推計される。

そのような状況にあることから、元気あふれる高齢者が地域で活躍できる機会を創出することが必要であり、健康寿命を延ばして、元気な高齢者の方が増えていくとともに、高齢者の方が身に付けた知識や経験を地域にいかし、これからの人たちに伝えて行くことが重要である。そうすることによって、これからの人づくりにも繋がるし、それが高齢者の方々の健康長寿にもつながる。

そこで、「高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で、健康で生きがいを持ち、また、介護が必要になっても尊厳を保持しながら、安心して自立した生活を送っています。」を今後 5 年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業としては、高齢者の社会参画の推進、認知症高齢者等対策の充実、介護保険事業の充実などを掲げており、特に、高齢者が生き生きとした生活を過ごすことができるよう、「高齢者等地域活動支援ポイント事業」を来年度から本格的に実施する。

また、今年の 10 月 4 日から 7 日にかけて、ねんりんピック栃木 2014 が栃木県で開催される。県単位での開催になるので、会場は宇都宮だけではないが、宇都宮では「健康マージャン」、「サッカー」、「太極拳」、「インディアカ」、「弓道」の 5 つの競技が行われる。

皆様方にも是非参加していただきたいと思うし、このような大会に参加できるような健康づくり、体力づくりを行っていただきたいと思う。

#### (2) 愛情豊かに子どもたちを育む

0 歳から 14 歳の年少人口は、平成 22 年には約 7 万 2 千人だったが、平成 42 年には 5 万 6 千人まで減少すると推計される。また、総世帯数も若干減少していき、核家族化の影響により、65 歳以上のひとり暮らしの世帯が、平成 22 年度と比較すると相当伸びてくる状況になると考えられることから、地域、事業者、行政等が連携し、子育てにやさしい環境をつくっていくことが必要になる。

そこで、「地域社会が一体となって、子育ての支援に取り組み、子育て家庭が愛情を持って安心して子どもを生み育て、子どもがいきいきと子どもらしく育っています。」を今後 5 年間での望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業としては、妊娠・出産に対する支援の充実、子どもの健康支援の充実、保育所、認定子ども園等の整備促進などを掲げている。既に始まっているものとしては、妊娠された方の健診にかかる費用を 14 回まで補助するという制度がある。また、妊娠されてから出産後 2 か月間までの医療費も支援している。子どもについても、小学校 6 年生までの医療費を支援しており、子どもを生みやすい環境、



育てやすい環境をつくっている。

子育てについてであるが、認定子ども園の新設や保育所の増改築を行いながら、定員を240名増員し、4月1日の時点では、3年連続で保育園の待機児童は0になっている。横浜市が有名であるが、横浜市よりも早く待機児童0になった。しかしながら、1年間を通すと待機児童が出てしまう月があるので、これからもそこに力を入れていきたいと思う。

子育てに不安や負担を感じている人が減少しなければ、少子化は止まらないと考えている。

### (3) 都市の福祉力を高める

ひとり暮らしの高齢者の方が、増えているという実情があり、「充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送っています。」を今後5年間の望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業としては、地域福祉ネットワークの形成支援、孤立死の防止対策の推進、生活困窮世帯への支援の充実などを掲げている。

孤立死を防止する上で個人情報の壁ということがあるが、このようなことをこれから解決していかなければならない。

生活困窮者への自立相談については、市総合福祉センターに相談支援窓口を設置したほか、市老人福祉センターなどの6か所において、相談の受付を行っている。生活保護を受けている世帯の子どもは、貧困の連鎖により、繰り返し生活保護を受給しなければならない状況になってしまうということを受けて、宇都宮市では、お金が無いから学習塾などに行けず、学校に行っても勉強についていけないということ無くすために、子どもを1か所に集め、先生として教えられる方々に宿題や予習などを無料で教えていただくという中学生への学習支援を実施しており、高校への進学についての相談も受けられるという環境を整備した。また、学習支援に来られないという子どもに対しては、通信添削による指導ができる制度も実施している。

## **発言 1 社会福祉協議会について**

総合計画に、社会福祉協議会の地域活動への支援の充実とあるが、社会福祉協議会の事業の中身について、今まで理解ができなかった。これからは、社会福祉協議会が地域活動の核になってくると思われることから、社会福祉協議会を非常に大事にしなければならないが、社会福祉協議会の在り方等を含めて3か月に一回ぐらい広報されているだけで、社会福祉協議会の具体的な行動等について、一般の方には認識されていないのではないかと考えている。

具体的な処方箋がこれから出るのだろうと思っているが、その点について伺いたい。

## **回答 所管課：保健福祉総務課**

【市長】

社会福祉協議会について、ボランティアの皆様や民生委員、児童委員の方々はお分かりになるかと思うが、普通の方には中々分からないと思う。災害や水害があったときに、社会福祉協議会が中心となり、現場の指揮を取ったりしているが、そのほかにも、高齢者への食事の提供や健康づくり活動など、様々な事業を行っている。また、指定管理者として、宇都宮市の公共施設の管理委託をいただいている。

市民の皆様に分かりやすいように具体的な事業を出しながら、社会福祉協議会を周知していきたいと考えている。

## ■自由討議（要旨）

### 発言 1 車道と歩道の段差について（1）

「平成 22 年 8 月広報うつのみや」で「自転車のまちづくり」を見て、市に電話をし、「自転車のまちにするのであれば、道路に段差があり過ぎる。雀宮地区は来年工業高校ができるので、新設の道路は、段差を付けないでほしい。」とお願いした。

平成 23 年 9 月 8 日に市役所の西部区画整理事業課に行き、安塚街道が広がることも知ったので、「神戸駅や上野駅付近はバリアフリーになっており、とても自転車には良い状態なのを見てきたので、自転車のまちにするならば道路を整備してほしい」とお願いしたが、「御期待にそえないかも」との回答だった。

平成 23 年 10 月 25 日にバリアフリーの件で、県の道路整備課に電話をしたところ、「宇都宮土木事務所に手紙を書き、富山市の段差の無い写真を同封すると良い」と教わった。

平成 23 年 10 月 29 日に大いちょうの通りから市役所の駐車場までの写真を撮りに行ったが、駐車場のほうの縁石が修理されていたが、段差があるためではないかと思った。

平成 24 年 1 月 1 日に道路の件で市長に手紙を出し、平成 24 年 3 月 6 日に市長より回答が届いた。

平成 24 年 3 月 15 日に市役所のホームページに、土木会議の方が 5cm の段差をバリアフリーと言っていることが掲載されていたが、バリアフリーはスロープまたは段差ゼロのことではないかと思った。

平成 24 年 3 月 30 日に資料を友人と私で作成したものを連合会長に見せ、1 部を差し上げた。

平成 24 年 4 月 12 日に市役所の建設部に、私と連合会長と市議会議員の 3 人で資料を持ってお願いに行き、建設部長のほか 5 名、計 6 名に資料を 1 部置いてきた。

平成 24 年 4 月 25 日に馬場町の出張所で市長と偶然会い、道路の件をお願いした。

平成 24 年 4 月 27 日に市長より電話があり、「宇都宮市と市の道路は段差ゼロにできるが、国は 2cm と 5cm の段差を付けることになっている。国の段差ゼロを是非働きかけます。」と言われた。

大いちょうの付近は、段差が無いところもあるので、車椅子やベビーカー、シルバーカー、視覚障がい者の方、高齢者が増える社会になることから、新設する道路は段差ゼロの道路にしてほしい。他県の市や町では、工夫しているところもかなりあるので資料を参考にいただき、宇都宮市でも是非お願いしたい。

市長から回答をいただいて2年半になるが、何の連絡もないので、中間報告をいただきたい。

宇都宮は自転車のまちにするとPRしているので、絶対に道路をきちんとしてもらいたいと思う。工業高校ができる1年前に電話を掛けたが、2cmの段差がある。安塚街道の十字路にも段差がある。どうして2年も3年も前をお願いしているのに、聞いていただけないのかと、すごく残念に思っている。

<b>回 答</b>	<b>所管課：道路保全課</b>
------------	------------------

**【市長】**

歩道と車道の段差については、段差が無いと車道と歩道の認識ができない方がいることから、国の指導により、5cmの段差をつくっており、歩道と車道の交差点部分に付いては2cmに下げている。それ以上下げることができるか、建設部でも検討させていただいたが、やはり目の不自由な方は段差が無いと車道と歩道の認識ができないということから、これからも基本的に2cmの段差はつくっていかねばならないと思っている。

**【後日回答】**

交差点の車道と歩道の段差は2cmを標準としており、ブロックの形状により、なだらかに擦りつけることは可能であるが、視覚障がい者は現在までのブロックで歩道と車道の段差を認識していることから、意見を聞いていくことが必要である。そのため、平成24年度から、各種団体に御協力をいただき、歩行実験やアンケート調査を実施してきた。視覚障がい者の皆様からは「なだらかで擦り付けていても、凹凸などがあれば良い」、「やはり今までのように段差があるものが良い」などの様々な意見があったが、前者の意見のほうが多かったことから、この意見を基に関係機関と調整を進め、互いに納得のいくような整備を進めていきたい。

また、交差点以外の段差(5cm)については、直進部の車の乗入れの段差は、歩道を通過し宅地に入る際に、歩行者を守るため、車の進入速度を減速させる効果を持たせていることから、これを変えることはできない。

なお、アンケート調査の結果については、関係機関と調整が取れ次第、中心市街地の公共施設や福祉施設の周辺修繕で優先順位を定めて段階的に行っていく。また、新設道路については、そのブロックを確定後、随時採用していく。

<b>発 言 2</b>	<b>J R 雀宮駅への椅子の設置について</b>
--------------	---------------------------

平成23年3月26日に雀宮駅西口広場が完成し、平成23年6月1日に市役所に椅

子の件で電話をした。

平成 23 年 6 月 6 日に電話があり，東西自由道路に手すりが二段になっているものは簡易椅子とのことだったが，誰に聞いても手すりにしか見えない。

平成 24 年 10 月 13 日に雀宮西口広場の完成祝に見学に行き，市長に椅子のことを聞いてもらおうと思っていた。

平成 25 年 1 月 25 日に市長に，ほかの駅の見本も同封した手紙を出した。

平成 25 年 3 月 6 日に市長より回答が届いた。

平成 26 年 3 月 18 日に雀宮駅の駅長に会う機会があり，ベンチの件を話したが，行政との話がつくまで待つてほしいとのことだった。

8 月 16 日に駅長に電話したが，その後なんの話も無いとのことであり，市から然るべき所に話を通してからと言われた。

高齢化社会になるので，是非雀宮駅に椅子を取り付けていただきたいと思う。市長から回答をいただいて，約 1 年 5 か月になるが，なんの連絡もない。中間報告をお願いしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：土木管理課，道路保全課</b>
------------	------------------------

【市長】

普通の椅子を設置してもらえないかということで，JR にお願いしたが，ホームレス等に占拠されてしまうことが心配されるとの指摘があり，妥協案として，手すりのようなベンチの形状にした。

【道路建設課長】

現在，JR と協議を進めており，ベンチを設置する了解を得られたところである。今後については，ベンチの形状や設置場所の詳細な設計を行い，施工の準備を進めていきたいと考えている。

<b>発 言 3</b>	<b>車道と歩道の段差について（2）</b>
--------------	------------------------

1 年ぐらい前のことであるが，福祉センターの前の横断歩道のところで 2 か所，試行的な実験に私も 1 回立ち会い，障がい者の方も高齢者の方もこの辺が良いのでは無いかということで，アンケートを提出した。アンケートの結果は半年ぐらいで出るという話だったが，アンケートの結果が明確になれば，段差についての判断が出るのではないかと考えている。

アンケートの結果について，後日，回答していただきたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：道路保全課</b>
------------	------------------

【後日回答】

アンケートの結果については，会長から発言者に渡していただいた。また，宇都宮老人クラブ連合会の事務局については，後日報告する旨もお伝えした。

#### 発言 4 子育てにやさしいまちについて

昨年 11 月に若松原中学校の東側の所に、NPO 法人パパママおうえん隊の事務所を構え、地域の皆さんと共に活動していったらいいなと思っている。2008 年の宮っ子フェスタをきっかけにできた団体であり、宮っ子フェスタにずっと参加させていただき、今年で 7 回目の参加ということになる。

宇都宮市の講座や 2010 年からは託児付き検診を担当させていただき、2 年ほど前に市長賞をいただいた。市長に一言お礼を言わせていただきたいと思いますと思って、本日は参加した。

私たちは、これからも子育てするなら宇都宮を目指してずっと活動していくので、宇都宮市とともに頑張っていきたいと思っており、子育てにやさしいまち全国 2 位を是非全国 1 位にできたら良いと思っている。これからも地域の皆様とともに頑張っていきたいと思うので、これからもよろしくお願ひしたい。

<b>参 考</b>	<b>所管課：みんなでまちづくり課，子ども未来課，保育課，健康増進課</b>
------------	--

#### 発言 5 障がい者にやさしいまちについて

私の子どもは重度の身体障がいを持っているが、4 年前に地域で暮らしたいというので、グループホームを立ち上げ、現在、7 名の利用者が住んでいる。今の支援法や福祉法が脱施設化ということで、地域で生活をしている。宇都宮市内の子どもたちが集まって生活をしており、五代若松原地区の行事等にも参加させていただき、先日の盆おどりにも喜んで参加させていただいているが、まだ皆さんの御理解が得られない部分がたくさんあると思っている。

先程の道路の段差についても、目の不自由な方にとっては、2cm か 3cm の段差があったほうが良いが、車椅子のことを考えたときには、この段差が危険を伴ったり、介護者が必要になってくることもある。利用者全員がバリアフリーになるわけにはいかないと思うが、地域の皆さんにちょっと車椅子を押ししていただいたり、ちょっと手を貸していただけると、住みよい生活ができるのではないかと思う。また、歩道に車を乗せてしまったり、自転車を乗せてしまったりしていることが一番の問題だと思っている。

今後とも地域の皆様に助けをいただきながら、様々な行事に参加させていただき、楽しく生活したいと頑張っている。良く買い物にも行っており、ごみ拾いなどもしているので、地域の皆様に声をかけていただきながら、地域で生活ができるように、地域の皆さんに協力いただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：障がい福祉課，道路建設課</b>
------------	-------------------------

【市長】

障がいがある方でも，その地域でいつまでも暮らすことができるという社会をつくっていかねばならない。最近，ドアツウドアでショッピングをしたいとか，用を済ませたいということで，歩道に片輪を上げたり，悪質なものは歩道に車を乗せてしまったり，車道に駐車していても逆方向に向いて駐車しているということが見受けられるような社会になってしまったことが，本当に残念である。警察だけが取り締まっても，難しいことだと思うので，市民全体で目を光らせるとか，そのような意識を持つことにつなげていかないと，後から後から真似をする人が出てくるのではないかと思う。行政としても，道路建設課では，そのようなことがなるべくやりづらいような，歩行者の安全が第一というような道路の建設をしている。これからもそのようなところに力を入れていきたいと思うし，警察にもこのような情報は必ず伝えていきたいと思う。

また，障がい者については，重度心身障がい者の医療機関窓口での自己負担をなくした。対応が大変遅くなったことをお詫びしたいと思う。これからも社会で支えていかなければならない弱者の方に対しては，より一層の支援を進めていきたいと思う。特に親が亡くなってから，障がい者をどのように支援していくのかが大きな課題となっているので，社会全体として取り組むことができるような仕組みづくりについて，行政として考えていきたいと思う。

<b>発 言 6</b>	<b>地域づくりについて</b>
--------------	------------------

自治会や色々な組織の中で，自分自身の職責を全うし，それから要望するというような，自分の責任というものをまずは行動で表すことが大事なのではないかと思う。行政に要望しようと思ったらきりが無いが，宇都宮の行政は本当に良くやってくれていると思う。自分の自治会や地域を考える，自分がどのように責任を持った社会生活を送るか，まずはそれを全うしていきたいと思っている。

<b>参 考</b>	<b>所管課：みんなでまちづくり課</b>
------------	-----------------------

<b>発 言 7</b>	<b>工事看板の表示内容について</b>
--------------	----------------------

家の前に道路ができたときに，工事看板に予算がきちんと書いてあるということに感動した。今まで見たことが無かったが，市ではこのようにきちんと対応していることに感動し，ありがたいなと思った。

<b>回 答</b>	<b>所管課：検査室</b>
------------	----------------

**【道路建設課長】**

現在は、一般の人が見ても分かりやすいように、工事看板に工事の内容や金額、連絡先等を記載している。今後も分かりやすいように表示していく。

**発言 8 総合スポーツゾーン整備に伴う道路の整備について**

県が総合スポーツゾーンの整備を進めているかと思うが、具体的なことはまだはっきりとは決まっていないような状態だと思う。私どもの自治会は、環状線と総合グラウンドに挟まれており、現在でさえ、環状線に抜けるのに朝夕渋滞する状態にある。道路に関しては市道になるかと思うので、十分に調査し、現在の状況を把握していただいて、改善できる点は改善していただきたい。

県からの説明では、雀宮駅から総合グラウンドに行く流れがちょっと見えない部分がある。高校生は、当然駅を使って総合グラウンドに行くので、道路の拡幅や歩道を整備し、スムーズな道路利用ができるように検討していただきたい。

**回答 所管課：地域政策室，土木管理課，道路建設課**

**【市長】**

県が総合スポーツゾーン構想という計画を立てている。市には、まだ具体的な話がきていないことから、具体的な話はできないが、サッカーや国体、高校野球の決勝などが開催されると、相当な人数が押し寄せることになると思う。本市としても、円滑に出入りができるようにしなければならないと、痛切に感じている。周辺道路の整備については、県と協議しながら事業を進めることになると思うが、交通渋滞を最も重要に考えながら進めていきたいと思う。整備する際には地域の方々に説明会を開催するので、御意見を伺いながら進めていきたいと思うので、よろしくお願ひしたいと思う。

大きな大会のときの車のさばき方や東武西川田駅とJR雀宮駅の整備について、県がどのように考えているのかということにも、市としては口を挟んでいきたいと考えている。